

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：キャリアセンター	担当部局：キャリアセンター
大項目	8 学生支援 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	8.0.4 学生の進路支援は適切に行われているか。	
要素	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	
	キャリア支援に関する組織体制の整備	
	キャリア教育の適切性	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。

A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 就職率は景気動向に関わらず85%以上とする	→就職率・・・分母は「就職希望者」ではなく、「卒業生」である。具体的には(就職決定者+自営)÷(卒業生-進学決定者)	B	B	B		
2. 1～2年生向け体験型実習プログラムの参加者数を年間400名以上とする	→体験型実習プログラム・・・2008、2009年度の例で示すと、「マスメディアで働く」「ネクストリーダーズ・プロジェクト」「ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成塾」「KGワークラボ」「ベンチャー・インターンシップ」「市長インターンシップ」「グローバルリーダー・インターンシップ」「ワンディ・インターンシップ」	B	B	B		
3. 年間の企業訪問数を延べ500社以上とする	→年間の企業・団体訪問件数(延べ数)・・・キャリアセンター職員による訪問	B	B	B		
3-2. 大学として把握可能なインターンシップ派遣学生数を年間延べ300名以上とする		B	B	B		
4. 学生が常駐する4キャンパスにおけるキャリア支援サービスの均質化を図る	→各キャンパスへの課長または主任の配置・・・指示命令系統の一本化によるサービス水準の均質化	B	B	B		

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度就職率は82.8%であった。2011年度は東日本大震災の発生が選考活動開始直前のことであったため、まともに影響を受けるとともに、その後も世界的な通貨危機や超円高、タイの大洪水等により企業の採用意欲を急速に冷え込ませることとなった。内定状況も年度当初の5月は前年度の6割程度だったが、カウンセラーの増員による相談体制の強化や学内企業説明会の誘致等積極的に施策を実施した。結果、最終的には前年度並みの就職率を維持することができた。
目標2	「マスメディアで働く(40名)」「ウィメンズ・エグゼクティブ・リーダー養成塾(40名)」「ネクスト・リーダーズ・プロジェクト(28名)」「一日企業体験(37名)」「KGワークラボ(25名)」「成長企業インターンシップ(15名)」「公募制インターンシップ(35名)」「KG枠インターンシップ(自治体)(12名)」等各プログラムに合計232名が参加した。
☆ 目標3	企業との関係強化に努めるために、7月と10月に集中的に全課員が分担して、首都圏と東海地区、関西地区の企業を訪問した。また、教育懇談会に合わせて札幌、四国、中国地区の企業を訪問した。更にインターンシップ受入企業の開拓やお礼訪問など合わせると合計440社を訪問した。引き続き新規開拓に努めていきたい。また、大学が把握しているインターンシップ参加者数は173名であった(3年生対象・選抜型インターンシップ、低年次向けインターンシップ、正課教育プログラム(インターンシップ実習、社会実習(大学院)インターンシップ))。
目標4	現在は各キャンパスの運用や指示命令が均一に徹底されるために、週1回の全体ミーティングの開催や勤務シフトによってローテーション勤務を行っている。加えて各キャンパス固有の問題に対応するためにキャンパス毎のミーティングに管理職者が参加する形で運用している。次年度へ向けて学生数が5,000名を超えた神戸三田キャンパスには常駐の監督職以上の専任スタッフの必要性があり総務部へ要望を行っている。
備考	

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

	単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1 第一回キャリアガイダンスの有効性について	%	78.9	41.8	95.9	97.0	95.1	文系学生対象・第一回キャリアガイダンスのアンケートで「よく理解できた」「理解できた」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の4段階評価のうち「理解できた」以上。
指標2 就職決定率	%	98.4	97.6	96.5	96.2	96.0	就職決定者÷就職希望者
指標3 就職率	%	87.6	88.1	82.8	83.0	82.8	(就職決定者+自営)÷(卒業生-進学)
指標4 就職先への満足度調査	%	98.0	94.9	89.2	94.3	94.3	内定企業への満足度(就職決定時のアンケートより) 「非常に満足」「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」「おおいに不満」の7段階評価のうち「やや満足」以上
指標5 人気上位100社への就職者の比率	%	21.7	19.2	16.6	14.3		人気企業100社はリクルートワークス発表による 人気企業100社への就職者数÷就職決定者
指標6 大企業就職率	%	63.9	64.1	57.6	54.0	49.8	民間企業への就職者のうち 大企業(従業員数1,000人以上)への就職率

注) 指標1は、2006年度から調査開始。2008年度までは「役立った」「どちらかというと役立った」「どちらともいえない」「どちらかというと役立たなかった」「役立たなかった」の5段階評価のうち「どちらかというと役立った」以上。2009年度は「とても参考になった」「参考になった」「あまり参考にならなかった」「参考にならなかった」の4段階評価のうち「参考になった」以上。2010年度以降は「よく理解できた」「理解できた」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の4段階評価のうち「理解できた」以上。

注) 指標4の2005年度は、「満足」「まあまあ満足」「やや不満」「不満」の4段階評価のうち「まあまあ満足」以上。

注) 指標5の「リクルート人気上位100社ランキング」は2011年度生以降は調査が実施されていないため回答できない。